

わたしの言葉が 未来のチカラに

2022年度 JICA国際協力中学生高校生エッセイコンテストの作品募集が始まりました！（募集期間：6/7(火)～9/11(日)当日消印有効）このエッセイコンテストは1962年に、南米への海外移住を考える「海外移住懸賞作文」としてスタートし、時代と共にそのテーマを変えながら今年で60周年を迎えた歴史あるコンテストです。今回は、2018年に中学生の部JICA理事長賞を受賞した瀬川大地さんに、副賞の海外研修で感じたことや、エッセイを書いた体験が、今、そして未来にどう影響しているのかをお聞きしました。



受賞者の声

2018年度 エッセイコンテスト 中学生の部
独立行政法人国際協力機構理事長賞 受賞
瀬川 大地 さん



▲海外研修で現地の子どもたちと撮った写真。
中央下が瀬川さん。

<入賞作品>

「海を渡った車いすー外の世界を知らない友達へ」
(作品は[こちら](#))

自分が使った子ども用の車いすを、海外に送ることを決心した瀬川さんは、それをきっかけに、世界の障がいをもつ子どもたちの生活について考えます。本当の意味での支援とは何か、瀬川さんが体験を通して感じたこと、考えたことをエッセイで表現しました。

Q1

エッセイコンテストに参加したきっかけは？

学校にエッセイコンテストのポスターが掲示されていたのを目にしました。元々書くことが好きだったので、**書いたものを通して自分の思いを広く伝えられたら嬉しい**と思い、自分から先生に声をかけました。それまで旅行などで海外に行ったことがありましたが、**海外と日本では違いがたくさんあると感じていました**。特に自分には障がいがあり、海外でも車いすを使うので、道路の舗装のされ方や周囲の人々の理解、鉄道やバスの有無など、**自分なりの視点での気付き**もありました。

また、学校で貧困問題について学んだときに、なぜ貧困があるのだろうと思って、たくさん調べました。その構造はとても複雑ですが「**それに対して自分には何ができるのか**」を考えて、**実際に行動をしたタイミング**だったので、このエッセイコンテストはそんな自分の体験を活かせる良いきっかけだと思ったのです。

▼2022年度エッセイコンテストのポスター



副賞の海外研修については次のページ

Q2 どんな思いを込めてエッセイを書いた？

車いすを送る活動をいろんな人に知ってほしい、**自分の経験や境遇を伝えたい**、と思いこのエッセイを書きました。また自分の経験から、行動に移すことの大切さを実感したので、自分のエッセイを読んだ人が、**身の回りの物事を自分の目で見て、自分の耳で聞き、五感を使って確かめることで、よりワイドな視点で捉えたり、それに対して行動することにつながって欲しい**と思いました。

実際にエッセイを書いた時には、自分が書いたものがどのように人に伝わるか不安な気持ちもありました。なので、途上国の方をはじめ、いろんな立場からの視点でどう見えるかを意識して推敲しました。日本からの観点だけに固執せず、途上国などの視点にも立ち、フラットな目線を持って書くことを心がけました。

受賞したことを聞いた時は嬉しかった反面、本当にこんな作品で受賞してもいいのかな、と実感できない部分もありました。しかし、ハンデがある人でもこうして活躍できる場があるんだと思えて自信になりました。**今、何かを知ったり考えたりする時は、日本の観点と途上国の観定の両方から考えるようにしていますが、それはエッセイコンテストに参加したことで身に付いたもの**だと思います。

Q3 副賞の海外研修について教えて！

瀬川さんは、受賞した翌年度（2019年）の夏休みに、副賞としてベトナムに4泊6日の海外研修に行きました。海外研修には受賞者10名も一緒に参加しました。現地では、JICAベトナム事務所への訪問や歴史博物館の見学、村の一般家庭へのホームビジットのほか、児童保護局や孤児院を訪問し、現地の方々と交流しました。

海外研修の中で、印象に残っていることは？



自分と同じく2018年度のエッセイコンテストで受賞した全国の中学生・高校生で海外研修に参加したのですが、**自分と同じようなことを考えている仲間がいるんだ**、と感じたことが印象深く残っています。海外研修から

3年経った今でも、そのメンバーとは年に1回くらいオンラインで集まって話をしています。お互いに近況を伝え合ったり環境に関心のある先輩が自分なりに活動しているのを聞いたりすると、**自分も頑張らないと！と刺激をもらいます**。

海外研修を通して感じたこと、学んだことは？

ベトナムは歩道がない場所があったり、歩道があっても車いすが通るにはでこぼこだったりしました。その意味では、車いすの人にとって日本は恵まれている環境だと感じました。このように、ハンデがある**自分だから気付けること**



があって、その自分にしかない視点をほかのメンバーと共有できるのはいいことだなと感じました。また、ベトナムの歴史に関する施設にも訪問しましたが、当時自分はベトナムの歴史をよく知らない状態で見学をしました。その時に、文化的背景などの知識を持つことの大切さを実感しました。



これからエッセイコンテストに参加する人へのメッセージは次のページ

Q4

エッセイコンテストへの参加は、
その後の自分にどう活かしている？

何よりも、**自分は自らの考えを表現できる人なんだと思えたことで、自分に自信ができました。**個人的には、学生のうちにはいろいろなことについての知識を蓄える時期だと考えているので、これからも多くのことを身に付けて、それを活かしていこうと思っています。

Q5

これからエッセイコンテストに参加する人への
メッセージ

学校の授業は、自分とは関係がないことのように見えることもあるかもしれませんが、実は社会や世界を通じて全てつながっています。いろんな知識が自分の中に増えることで、自分は何に興味があるのかが見えてくると思います。**自分のこと、自分にしかないことを知ることで、周囲のことにも関心が広がっていく。その「自分を知る」きっかけとしても、思い切ってエッセイコンテストに参加してもらいたいです。**そして、興味があることはどんどんトライしてみることが大切だと思っています、そのためには行動力や表現力を鍛えることも重要です。きっとエッセイコンテストは、そんな力を身に付けるためにも役立つと思います。

2022年度エッセイコンテストについては[こちら](#)



担当者の声

エッセイコンテスト担当
JICA広報部 地球ひろば推進課
岩下 奈未 職員

JICA国際協力中学生高校生エッセイコンテストは、開発途上国の現状や日本との関係について理解を深め、国際社会の中で日本、そして自分たち一人ひとりがどのように行動すべきかを考える機会を提供することを目的としています。世界や地球にはさまざまな課題がありますが、それらをジブンゴトとして捉え、自分には何ができるかを考えてもらえるよう、毎年テーマを設定しています。

2022年度のテーマは、「**世界とつながる私たち～未来のための小さな一歩～**」です。世界とのつながりは身近なところにもたくさんあります。自分と世界との接点から、未来に向けて私たち一人ひとり一体何ができるか考え、行動したことについての作品をお待ちしています！



さらに今年度は、新たに「エッセイ書き方ガイド～実践ワークシート～」を制作しました。エッセイに取り組む際に、ぜひご活用ください！
(ワークシートは[こちら](#))

エッセイを書くことは、「中学生・高校生が自分の日常の中から、できごとや感じたこと、その時の思いを切り取ること」と言えます。流れていってしまいそうな日常を、丁寧に言葉にして、作品として残す。その経験は、数年経っても、自信や目標、仲間といった『未来のチカラ』に形を変え、書き手自身にも残っていくものになるでしょう。

瀬川さんの言葉から、そんな未来につながるエネルギーを感じました。

学校全体で取り組むこともできるエッセイコンテスト。それぞれの思いの込められた作品をお待ちしています！